との関係を検討した．これらの病像の度合とよく相関し，Renogram 検査は，糖尿病の症状の度合を知るには適した検査法と考える．

*

4. ^{131}I-BSP による肝胆道系疾患の動的解析に関する研究

有森　茂　吉岡溥夫　長谷川　真
尾崎幸成　岩崎一郎　平木　　潔
（岡山大学　平木内科）

比放射能0.193mCi/mg．色素量0.5mg/100μCi の ^{131}I-BSP（ダイナボット）の 200～300μCi を静注後，経時的に採血して ^{131}I-BSP 血中半減期(T/2)，血中消失率 BDR(K)並びに血中残留率 BRR(30分後は BRR 30, 45分後は BRR 45，いずれも静注7分後の血中 ^{131}I-BSP を基準とした）を求めた．健康人の T/2 は 6.0±0.93分 (Mean ± S.D.)．BDR 0.118±0.017，BRR 30：12.76±1.07%，BRR 45：9.8±0.33%（N=7)，肝硬変症では T/2：9.0±1.4分，BDR：0.078±0.01，BRR 30：19.5±2.95%，BRR 45：12.7±2.55%(N=2)，慢性肝炎 T/2：8.3±3.59分，BDR：0.090±0.02，BRR 30：17.6±7.06%，BRR 45：11.1±2.94%(N=6)，胆嚢症 T/2：10.2±5.91分，BDR：0.092±0.047，BRR 30：21.5±12.8%，BRR 45：14.4±9.8%(N=5)．閉塞性黄疸を呈した胆管癌，膵臓結石，胆管結石では最高 T/2：93分，BDR 0.007，BRR 30：75.6%，BRR 45：71.6%，BRR 45：71.6%の異常値を示した．血清肝炎，急性肝炎では BDR あるいは BRR 30 の軽度増加を認めた．^{131}I-BSP 静注後の血中消失曲線，胆汁内排泄量（全胆汁と上清・沈渣-ピクリン酸加)，BRR の経時的変化，scintillation camera による肝・胆道，腸管充実影像についても検討を加え，^{131}I-BSP の有用性を見出した．

*

5. ^{131}I-BSP の臨床的応用

○湯本泰弘　難波経雄
（岡山大学　小坂内科）

DINABOTT 社製 ^{131}I-BSP につき，その血中消失曲線を2～3個の指数函数に分離し，電算機で逐次近似した．この30分における割合(%)は血中消失曲線の2分値でもって30分の値を除した割合(%)と高い相関を示した．後者の%と体重より循環血液量を算定して求めた Percent Retention と高い相関を示すが，体重の極めて重い人では Percent Retention は高い値をとった．2分値で除した割合(%)は正常例で6.61±0.99%で急性肝炎，肝内胆汁うったい，肝硬変症で高い値を示し，悪性完全閉塞では50%以上を示した．Kicg と逆相関，血清総ビリルビンとは正の相関（r=0.751，P＜0.01）を示した．血清総ビリルビン 1.0mg/dl でも ^{131}I-BSP が異常値をとるものがあり注目に値いする．この中で肝硬変，慢性肝炎の各1例にトランスアミナーゼが正常であるものを認めた．従来の BSP テスト30分値との相関は r=0.780，(P＜0.01)を示したが，1例大きく開遊離するものを認めた．副作用が少なく黄疸患者にも行なうことができる点が良い．2分間値で30分値を除した値が臨床上良い示標となる．Dubin-Johnson 症候群で血中に長くていたいし，腸管排泄が120分でも表われない2例を経験した．血中再上昇もない．

追加：有森　茂（岡山大学　平木内科）① Blood Retention Rase 計算の際の基準値を計算により0点にとるか，2分，5分，7分にとるかは極めて問題のあるところと考えます．2分は技術的に採血困難なところがあり，臨床への導入面にやや難があります．われわれは Data のそろっていた7分値を基準にしております．理論的には血漿との混合が完了した時点でもっとも早い時間を選ぶべきかと思います．② 再不全の1例で，GOT GPT，膠質反応およびビリルビン値正常にもかかわらず BRR の上昇をみた例があります．輸血による肝ヘモジデロージスも考えられますが，赤血球数の減少(貧血)が影響を及ぼす可能性もあり，興味をもっています．

*

6. レゾマット T_4 の使用経験

河野恒文
（松山成人病センター）

レゾマット T-4 kit を用いて甲状腺疾患患者の血清サイロキシン量を測定し，同時にトリオソルブ法による値も求め両者の比較を行なった．大多数の例において，T_4 と T_3 の値は相関を示したが，約¼の症例においては相関を示さなかった．T_3 の値が限界値を示す時に，その評価を明確にさせうるかどうかということについては，今後更に検討を加える必要がある．T_3 が正常値を示したものの内 T_4 が低いものが2例，高値を示したもの1例．T_3 が低値でありながら T_4 が正常値を示したものが2例あった．これらの症例全例について肝機能検

Presented by Medical*Online